

ご自由にお取りください



独立行政法人地域医療機能推進機構

JCHO大阪病院

Open Com オープン・コム

No. 54
2023

「特集」 消化器内科・消化器外科の紹介

開放型病床を持つ開かれた病院として、地域の先生方や住民の皆様とコミュニケーションを図り、心かよう安心の医療を目指します。



特集 消化器内科・消化器外科の紹介



消化器内科の紹介



JCHO 大阪病院消化器内科では、金子晃副院長の下、現在総勢 15 名の消化器内科医師が所属しており、一般的な内視鏡検査やポリープ切除、EMR^{※1}、ESD^{※2}の他、超音波内視鏡検査、ERCP^{※3}を含む肝胆膵疾患の精査、治療も多数例行っています。

● 安楽な内視鏡検査

「内視鏡検査はつらい」という患者さんを無くすため、当科では上部（胃）・下部（大腸）消化管内視鏡検査とも、鎮静剤や鎮痛剤を使用した内視鏡検査を積極的に行っており、患者さんに検査を楽に受けていただけるよう配慮しています。

リカバリー室を増設し、鎮静剤や鎮痛剤を使用した患者さんは検査後に休養をとりお帰りいただきます。鎮静剤や鎮痛剤の使用を希望されない患者さんや、使用しにくい状況では、苦痛を軽減するため、経鼻内視鏡で検査を受けていただくことも可能です。

疾患の治療には勿論力を入れていますが、病気を発見することは、治療と同等か、それ以上に重要と考えており、患者さんに気軽に内視鏡検査を受けていただけるよう検査体制を整えています。NBI^{※4}/BLI^{※5}、LCI^{※6}と呼ばれる最新の画像強調内視鏡も積極的に行っており、食道、胃、十二指腸、大腸だけでなく、咽頭部の観察もできるだけ行い、早期がんの発見に努めています。また、精査目的での拡大内視鏡検査にも力を入れており、「早期胃がんに対する拡大内視鏡検査のための多施設臨床研究」に参加し、トップクラスの好成績を収めていることより、安心して検査を受けていただけます。

また、粘膜下腫瘍に対するEUS^{※7}やEUS-FNA^{※8}も多数例行っています。EUS-FNAは高い診断率が得られており、2 cm 以上のGIST^{※9}などの手術適応症例は、外科と合同でLECS^{※10}を施行し、できる限り低侵襲治療が行えるよう心がけています。

● 大腸ポリープに対するポリペクトミー

男女とも、大腸がんが死因の上位を占めるようになっていますが、特に大腸は良性のポリープから、がん化するものが多いとされており、かなり進行した状態になるまで無症状です。そのため、無症状のうちに内視鏡検査を受け、ポリープの早期発見や早期治療をすることが重要です。まずは患者さんに、少しでも楽な検査を受けていただき、病変が見つかった場合には、できるだけ体に負担のない治療を受けていただけるよう留意しています。

※1 EMR（内視鏡的粘膜切除術） ※2 ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術） ※3 ERCP（逆行性膵胆管造影検査）

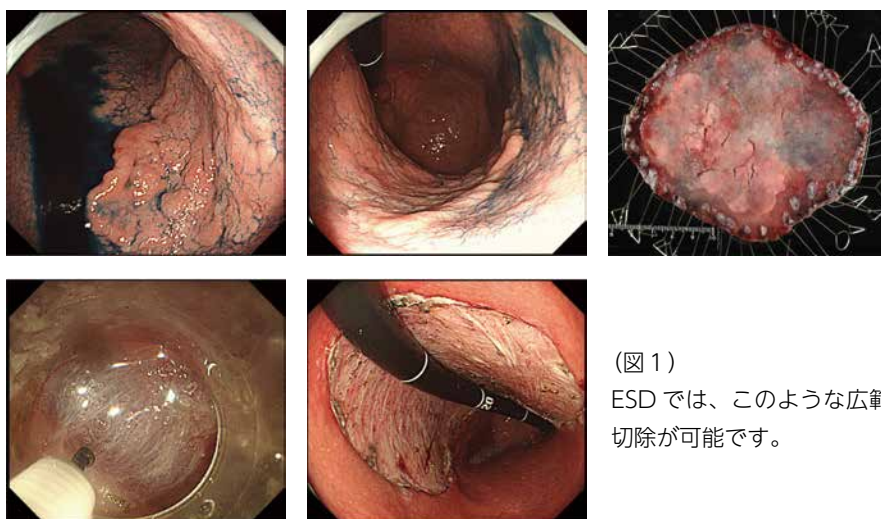
※4 NBI（Narrow Band Imaging） ※5 BLI（Blue Laser Imaging） ※6 LCI（Linked Color Imaging）

※7 EUS（超音波内視鏡検査） ※8 EUS-FNA（超音波内視鏡検査穿刺吸引法）

※9 GIST（消化管間質腫瘍） ※10 LECS（腹腔鏡内視鏡合同手術）

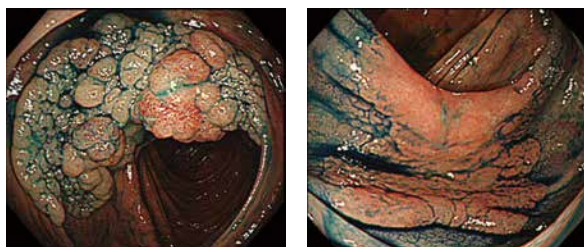
● 表在性消化管がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

早期胃がん、早期大腸がん、早期食道がんなどの表在性消化管がんに対するESDが開発され、これまで外科手術の適応とされてきた表在性の大きながんが内視鏡で切除できるようになりました（図1、図2）。当院では、多数の早期がんの症例に対し、ESDを行っており、2018年には計319件、2019年には計288件と、関西でも有数の治療件数となっています。ESDは、外科手術と比較し、患者さんの体への負担は少ない反面、技術的難易度が高い手技で、その技術の習得をするには、非常に多くの症例を経験する必要がありますが、当院の山本医師が独自に開発した技法も症例に応じて適宜行っています（図3）^{1) 2)}。



（図1）

ESDでは、このような広範囲に広がった早期胃がんも内視鏡的に一括切除が可能です。



（図2）

代表的な大腸ESDの適応病変

（左）表層拡大型腫瘍、顆粒型（LST-G）：粘膜内がん

（右）表層拡大型腫瘍、顆粒型（LST-NG）：粘膜下層軽度浸潤（SM1）がん

※いずれもESDにて合併症なく、治癒切除が得られています。



（図3）

当院の山本医師が考案し、2012年に論文化したクリップフラップ法です。剥離初期にクリップにより術野を展開し、ESDの安全性、確実性を高めるための工夫です¹⁾。

【参考文献】

- 1) Yamamoto K, Hayashi S, Nakabori T, et al. Endoscopic submucosal dissection using endoclips to assist in mucosal flap formation (Novel technique: "Clip flap method"). Endoscopy UCTN 2012; 44 Suppl 2 UCTN: E334-5.
- 2) Yamamoto K, Hayashi S, Saiki H, et al. Endoscopic submucosal dissection for large superficial colorectal tumors using the "clip-flap method". Endoscopy 2015; 47: 262-5.

● 外科や耳鼻咽喉科との連携について

外科や耳鼻咽喉科と協力し、ESD 手技を用いた LECS や表在咽頭がんに対する ESD も行っています。十二指腸は、壁が薄く、消化液に暴露されるため、ESD は特に穿孔の危険性が高いとされており、主に内視鏡的粘膜切除術（EMR または Underwater EMR）で治療を行っています。EMR で対応できない場合に、表在性十二指腸がんに対しても ESD を施行することがありますが、必要時は外科と合同で行い、重篤な合併症が起らないよう、安全性を重視しています。

外科とは、定期的に合同カンファレンスを行っており、外科手術が必要となった場合の連携も迅速です。各分野とも、日本内視鏡外科学会技術認定医の資格を取得した腹腔鏡を得意分野とする医師が揃っており、安心して治療を受けていただけます。

● 消化器内科診療体制（2023 年 3 月現在）

金子晃副院長ほか総勢 15 名

- 肝胆膵（巽信之部長）
- 内視鏡診断・内視鏡治療・早期がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術（山本克己内視鏡センター長）



消化器内科メンバー



消化器外科の紹介



JCHO 大阪病院消化器外科では、消化器がんに対し化学療法や手術を組み合わせた諦めない集学的治療を行い、手術に関しては低侵襲な腹腔鏡手術を積極的に行っています。

● 低侵襲治療に対する取り組み

当院消化器外科の上部消化管、下部消化管、肝胆膵の3領域では、低侵襲な腹腔鏡手術を行っています。腹腔鏡手術は、3～5か所の1cm程度の小さな切開創から二酸化炭素を注入し空間を確保し、挿入した腹腔鏡の画像を見ながら、マジックハンドのような鉗子と呼ばれる器具を用いて手術をする方法です。従来の開腹手術と比較すると、見た目の創が小さいのは当然ですが、高画質画像により繊細で緻密な手術が可能となります。腹腔内の創も最小限となり出血も少なく、患者さんへの負担が軽減されます。さらに当院では最新の3D腹腔鏡システムを導入しており、より高精度で緻密な手術が可能です。難易度の高い手術ですが、手術の質をビデオ審査して資格を得る日本内視鏡外科学会技術認定医を4名のスタッフが取得しており、安心して手術を受けていただけます。

また、早期がんに対しては、消化器内科、内視鏡センターと連携し、EMR※¹ やより高度なESD※² などの治療を積極的に導入し、より低侵襲な治療を心掛けています。

● 胃がん・食道がんに対する集学的治療

胃がん、食道がんの腹腔鏡手術、集学的治療を得意としています。ほぼすべての患者さんに腹腔鏡手術を行っており、2022年は44名のうち43名（98%）に胃がんに対する腹腔鏡手術を行いました。

特に早期がんに対しては、臍部3cm程度の1か所の創のみで行う単孔式腹腔鏡手術を導入しています。社会復帰も早く、傷もほぼ目立たなくなり、がんが治癒した時点で、腹部に傷もなく精神的にも解放されます。また、周囲臓器に浸潤しているような高度進行症例でも、薬物療法や放射線治療、手術を組み合わせた集学的ながん治療を行います。様々な治療オプションもあり、患者さんと相談しながら、それぞれの価値観に合わせた心のこもった治療を心がけています。

● 粘膜下腫瘍・良性疾患に対する治療

粘膜下腫瘍、特にGIST※³ の治療を得意としています。高度進行例に対しては集学的治療を行います。手術は腹腔鏡手術（単孔式）や消化器内科と合同で行うLECS※⁴ を施行しており、低侵襲で機能温存を心がけています。また、良性疾患である食道裂孔ヘルニア、消化管穿孔などに対する腹腔鏡手術も行っています。



単孔式腹腔鏡手術風景

※¹ EMR（内視鏡的粘膜切除術） ※² ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）

※³ GIST（消化管間質腫瘍） ※⁴ LECS（腹腔鏡内視鏡合同手術）

● 減量・代謝改善手術の導入

現在増加中の高度肥満患者さんに対する、減量・代謝改善手術を導入しました。糖尿病、高血圧に代表される高度肥満に伴う健康障害を改善し、患者さんのQOLの改善を目指しています。糖尿病内分泌内科医師と連携し専門外来を開始し、多職種を含むチームで高度肥満患者さんの減量をサポートします。BMI 35以上で健康障害を伴う患者さんでお悩みの先生方はぜひご紹介をお願いします。

● 消化器外科診療体制 (2023年3月現在)

西田俊朗院長、畑中信良副院長ほか総勢 13 名

- 上部消化管 (出村公一部長、村上剛平医長)
- 下部消化管 (井出義人部長、野中亮児医長)
- 肝 胆 膵 (森本修邦部長、山中千尋医長)



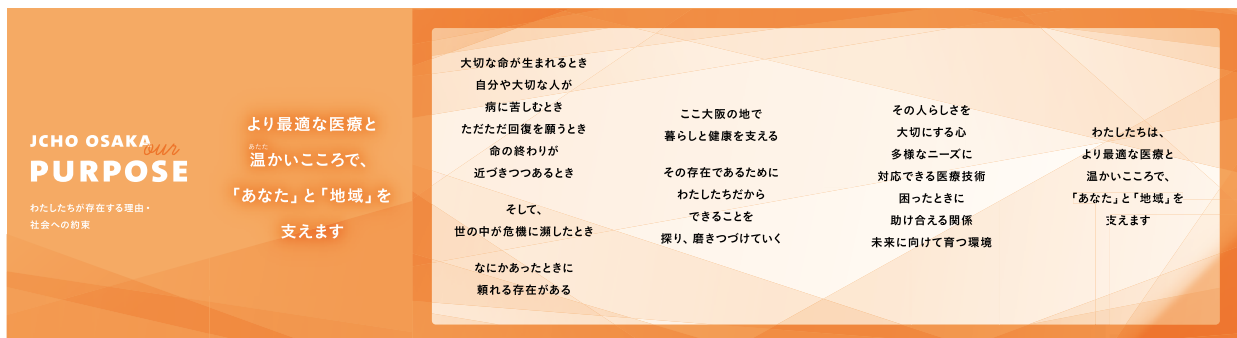
消化器外科メンバー

当院の活動が紹介されました

掲載年月日	新聞名	掲載タイトル	内 容
2022 年 11 月 20 日	読売新聞	病院の実力「肺がん」 (2021 年治療実績)	手術総数 25 件 うち区域切除 2 件 根治的な放射線治療 15 人
2022 年 12 月 25 日		病院の実力「脳卒中」 (2021 年治療実績)	脳梗塞 237 件 新規入院 9 件 脳血栓溶解療法 12 件 血栓回収療法 69 件 脳出血の新規入院 23 件 くも膜下出血の新規入院
2023 年 1 月 23 日		病院の実力「変形性膝関節症」 (2021 年治療実績)	主な手術 213 件 骨切り術 64 件 人工関節置換術 149 件 75 歳以上 84 件

JCHO Osaka our Purpose 完成！

社会環境・構造が複雑化かつ急激に変化する時代において、当院が置かれている状況を様々な観点から再確認し、「私たちはどこに向かうのか」「私たちはなにを大切にしていけるのか」…、今後の方針となる our PURPOSE の策定をするために、2022 年 1 月プロジェクトを創設しました。患者さん・地域医療関係者・職員から集めた数多くの意見を基に、現状を分析しながら、言葉を作っては切り、重ねては剥しを繰り返し、時には路頭に迷い、生みの苦しみを経験しながら、紡ぎ編み出していきました。そして、最後の意見集約を職員全員で行い、ついに 2023 年 3 月 1 日に完成いたしました！



わたしたちは、何をやるかではなく、なぜやるのかを問いながら、当院が存在する意味として【our PURPOSE】を表現いたしました。そして【our MISSION】【our VISION】の実現に向けて、【our CREDO】「あしたのしせい+」を示しました。これは、あらゆる日常の臨床場面において、私たちが大切にしている価値観や行動規範です。いつも5つの信条を念頭に置いて、わたしの小さな一歩を職員皆で培い、より最適と最善を目指していきながら、JCHO 大阪病院は成長して参ります。どうぞ今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

JCHO 大阪病院の受診について

■ 予約なしで受診

◆紹介状をお持ちでない場合も、受診いただくことができます。

紹介状をお持ちでない場合には、選定療養費がかかることがありますので、ご了承ください。

◆ご都合の良い日に、紹介状を持参し、11:30 までに受付へお越しください。

*診療のスケジュールをご確認の上、ご来院ください。

*整形外科と神経精神科は完全予約制です。かかりつけ医にご相談ください。

■ かかりつけ医からの紹介予約

①かかりつけ医が、FAX もしくは電話で予約する。

- FAX の場合は、「紹介予約申し込み書※」に記入して地域連携室へ送り、返送された「予約通知書」を受け取る。
- 電話の場合は、「電話予約申し込み書 兼 予約通知書※」に記入し、専用の予約電話番号（申し込み書に記載）で予約をとる。

②予約通知書と紹介状を持参して予約日にご来院ください。

※「紹介予約申し込み書」「電話予約申し込み書 兼 予約通知書」がかかりつけ医にない場合、当院ホームページからもダウンロードできます。



■ JR 東西線

「新福島駅」下車徒歩約 5 分

※出口 1 にはエレベーター、出口 2 にはエスカレーターがございます。

※当院に一番近い出口 3 には階段しかございません。

■ 京阪電車「中之島駅」下車徒歩 5 分

■ JR 環状線

「福島駅」下車徒歩 10 分

「野田駅」下車徒歩 15 分

■ 阪神電車「福島駅」下車徒歩 10 分

■ 大阪メトロ

千日前線「玉川駅」下車徒歩 10 分

■ 市バス

大阪駅前 鶴町四丁目 [55] 方面 「堂島大橋北詰」下車 すぐ

大阪駅前 西島車庫前 [56] 方面 「福島西通」下車 徒歩 5 分

大阪駅前 西島車庫前 [56] 方面 「大阪福島税務署」下車 徒歩 5 分

大阪駅前 船津橋 [53] 方面 「堂島大橋」下車 徒歩 5 分

■ タクシー

「大阪駅」より約 10 分



地域医療支援病院 日本医療機能評価機構認定病院/大阪府がん診療拠点病院

JCHO (ジェイコー) 大阪病院 信頼に応える医療

独立行政法人地域医療機能推進機構 (旧 大阪厚生年金病院)

JCHO大阪病院

検索

〒553-0003 大阪市福島区福島 4-2-78

TEL (06)6441-5451 (代表) FAX (06)6445-8900

<https://osaka.jcho.go.jp/> この広報誌に対するご意見・ご要望は、当院広報委員会宛まで

大阪府「男女いきいき・元気宣言」登録事業者／「働きやすい病院」認定病院 (第 1 号) / につけい子育て支援大賞受賞 / 女性のチャレンジ支援賞 (内閣府) 受賞

JCHO 大阪病院 SNS はこちら



LINE



Facebook



Instagram



オープン・コム
バックナンバー



古くより四つ葉のクローバーは「見つけた人には幸運が訪れる」という言い伝えがあります。当院は患者さんや地域の皆様が幸せになるお手伝いができるよう四つ葉のクローバーの形をモチーフにしております。

オープン・コム 54 号 2023 年 4 月発行
本誌の無断転載・複製は禁じます。